

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100487		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 長生の望・灯・楽 (望ユニット)		
所在地	釧路市大楽毛南4丁目6番8号		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100487-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>別海・西春別と合わせ、4事業所ある為、相互による事業所評価や職員の交換研修を行い、ケアの質の改善を目指しております。又、各事業所のケアマネが集まり、内部研修の内容や困難事例の事例検討会を行い問題解決に努めております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、海沿いの静かな住宅街の中にある鉄骨造3階建て耐火構造で、2階・3階をグループホームとして使用し、1階の多目的ホールを地域住民に開放している。また、地域に高い建物が無いので地域住民の避難場所として地域に貢献している。地域住民との関係も良く、運動会等の地域行事に積極的に参加したり、事業所前で行われる盆踊りには多数の地域住民が参加し、利用者と地域住民と馴染みの関係を築きながら交流している。事業所は職員育成に努めており、研修参加や資格取得を職員に促しながら質の高いケアを心がけている。職員は笑顔で利用者優しく接し、家族に対しても柔軟な対応をして、利用者1人ひとりの思いを優先して、出来るだけ今までの生活に近い日常を過ごせるように支援を行っている。重度化や終末期の取り組みの指針に基づき利用者、家族に説明を行い、同意書・確認書を交わしている。重度化した場合は、早い段階から医療関係者を交えて家族と話し合い、チームで看取りを行う体制を作り、家族から信頼されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットや正面玄関に掲示しております。毎朝の申し送りの際に唱和を行い、周知実践に活用しています。また、理念の配布と説明をし、理念の意味を理解するとともに、理念の理解に基づいたケアプランを作成し、実践しながら理念を理解できているか確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念にも掲げている通り、事業所として、地域との交流を大切にし、町内会にも加入しております。町内会主催の行事には、利用者が多数参加し、顔なじみの関係も築いております。また、地域交流の幅も広がっておりご協力・ご支援頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で定期的に意見交換を行っており、認知症の理解や支援に繋がっています。地域の学生の就業体験や初任者研修・ボランティア養成の実習の受け入れを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや職員の資質の向上（研修・事故報告等）、課題等を議題等に報告・相談し、委員の方々の意見を参考にサービスに活かせるよう心がけております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者は、国や道から下りてきた情報や連絡事項等を速やかに通知して下さります。運営推進会議の概要報告書で状況を把握していただき、必要時には確認等の連絡を密に行える関係にあります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、行動制限を行わないよう取り組んでおり、スタッフが日常のケアの中で実践しています。施錠が必要と思われる時などはスタッフと密に連携を図り、やむを得ない拘束が必要な際は、家族への説明と同意を書面で交わし理解をいただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について内・外研修によって理解を深める機会を設け、『不適切なケア』についても定期的に現状に無いか確認します。また、職員のメンタルヘルスクエアにも留意します。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既存の入居者の中に成年後見制度を利用されている方がいる事で、市の担当者や後見人との連携が保たれています。今後も、権利擁護についても理解し必要な援助に活用します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は十分にしており、理解をして頂いて締結しております。また、改定、変更がある場合にも、書面等や直接説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱、アンケート用紙を置いています。また、ご家族の来訪時や電話、手紙などで利用者の近況を報告し、ご家族の要望等も頂きながら職員間の周知徹底・連携を図り、サービスの向上に努めております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接、施設長との面談もありますが、定期に開催している幹部会議の場で、スタッフの意見や提案を取り上げ、運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績に応じて、人事考課をし、キャリアパスを設け、向上を持って働けるよう努めております。また、職員同士の連携・協力体制が図れるよう働きやすい雰囲気作りなどにも努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・ホーム内の研修に参加して、研修内容をスタッフ会議や学習会で他のスタッフに情報の共有を図っています。実際に支援の中で実践し、確認、理解し合い、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会や、その他の団体が開催する研修会や交流会に参加し、サービスの向上に取り組んでおります。また、他事業所との連携が図れており、情報交換や協力関係にあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が関わる、支援事業所や医療機関より、情報を提供していただき、ご本人の不安な事、求めている事を、安心して相談できる体制や雰囲気作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者が関わる、支援事業所や医療機関より、情報を提供していただき、ご家族の不安な事、求めている事を、安心して相談できる体制や信頼関係の構築を重視しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談や面談の際、必要とされる支援の見極めを行い、求められている支援について、職員全員で話し合い、初期の介護支援計画を立てます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、個々の能力を活かした役割分担を見極めながら行っており、ちょっとした工夫を利用者の方から教えて頂く事があります。気づきを大切に、互いに学び支え合う関係を目指しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡や面会、月に一回発行の通信物により、ご本人の様子を伝えると同時に、ご本人の要望を御家族へ伝えていきます。ホームの行事等がある際には、ご家族へ御案内し、共に過ごす時間を作れるよう働きかけております。また、連絡ノートを活用しながら、本人や家族とのコミュニケーション・情報共有に活かしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や、友人の電話でのやり取りや、来訪を快く受けております。ホームでのご様子をお伝えするとともに、お互いの情報交換を行いながら理解を深めてより良い関係作りを築けるよう努めております。外出への要望には常時対応できる体制に努めております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が互いに助け合い、優しい言葉を掛け合いながら支え合って生活を共にしています。トラブルになりそうな時もありますが、スタッフが介入し、話題を変えたり雰囲気作り・環境作り等工夫し調整を図っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後を必要とされる対応に心掛け、気軽に相談できる体制と雰囲気作りを心がけております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の信頼関係作りに努め、日々の会話の中から、ご本人の思いを傾聴し尊重しながら、センター方式の活用と共に意向の把握に努めております。困難な場合は、本人の表情や言動を感じ取る努力を行い検討しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用やご家族より情報を頂くことで、本人の生活歴やサービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌を活用しながら一人一人の残存機能を把握し、体調変化や表情、言動等に留意しながら現状の把握に努め、見直してあったり個々の現状に合わせてながらその人らしい生活ができるよう努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当者が本人の生活の要望や家族の意向を伺い、センター方式を活用し介護計画に反映していません。必要と思われる場合は、主治医や訪問看護師からもアドバイスを受けられる体制も整えております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で、体調変化、言動等を介護記録に記録し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしております。また、体調観察などで、細やかな把握が必要と思われる時は、個別の記録用紙を用いて詳細をまとめ、ケアの方向性を見直し・検討しながら実践に活かせるよう取り組んでおります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的にご家族との情報交換を行い、外出や病院受診の対応を家族や職員が行っております。一人一人のニーズの多様化を柔軟に捉え、今後はインフォーマルなサービスの活用にも取り組んでいきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加し、地域住民との交流を大切にしております。災害時や徘徊の対応など理解と協力をお願いしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や緊急時の受診についてもご家族との連携を図り、情報提供書を作成し適切な医療を受けられるよう支援しております。夜間の医療との緊急連絡体制・訪問診療を受けられる事で看取りの体制も整っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪看の際には、日常生活の状況及び治療経過の報告を行い、相談や助言を頂き、日常生活上の健康管理支援に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、介護添書を作成し、情報提供書を提示し医療機関へお渡しします。ご家族との連絡も常に行い、定期的な訪問も心がけます。退院時には、医療との情報交換を行い速やかな受け入れ体制を行います。また、入退院時の再確認事項・相談事項があった場合も情報提供を行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて事前に本人・家族と看取りについて話し合い、書面にて意向やホームでの対応について説明し同意を頂いております。状態の変化に応じて、家族・医師・訪問看護師・職員等との情報の共有と方針の確認を行います。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の緊急マニュアルを作成し、常に職員の早期対応出来るよう研修会議の際に確認している。2009年より、AEDを設置、使用方法も講習し分かりやすい使用方法のマニュアルも常備しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した訓練を定期的に行っています。少人数での消火、通報、避難誘導をしなければならないため、訓練には、町内会・近隣の方にも参加していただき協力体制にあります。また、消防職員にも参加して頂き、安全な避難誘導のアドバイスやご指導頂いております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけないように真心で接するように努めています。また、個人情報については、事務所内の書庫にて保管、管理しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心できる環境作りを通し、日々の会話の中で、何を思い何を願い何を求めているかをご本人の視点に目を向け傾聴し、個々に合わせた対応を行いながら自己決定を尊重できる体制作りを心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の皆様に、家族・家庭により近い生活を共感し尊重するケアの大切さ・必要性の意識付けを図り、ご本人の視点に向き合い寄り添いながら、「その人らしい、あたり前の暮らし」に向け支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師に依頼しております。本人の希望がある場合は、馴染みの美容室へ外出しております。整容の乱れなどご本人の自尊心を傷つけないように、さりげない声掛けを心がけています。また、行事などTPOに添ったおしゃれを楽しんで頂けるよう配慮しております。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に合わせて作業を分担し、メニュー決めであったり、職員と共に料理・片付け・食事を楽しむ・楽しめる環境作りを心がけております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが保てるよう調理の工夫・嗜好の取り入れ・器や配膳の工夫に努め、水分・食事摂取量を記録し把握に努めております。残存機能を活かしながら必要に応じて介助を行っております。また、必要な水分摂取量が摂れるよう嗜好やコップの大きさ・形状の工夫、ストローの活用等支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しております。介助の必要な方には、義歯・口腔洗浄等の介助を行っております。また、歯科医師・歯科衛生士による定期訪問診療により、ご本人の口腔状態を診て頂き、個々に合った口腔ケアのアドバイス・ご指導を頂きながら取り組んでおります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて記録し排泄状況を把握し、排尿間隔がある場合や尿意の訴えがない場合は、声掛け・誘導を行いながらトイレでの自力排泄に努めております。トイレで排泄できる安心感や喜び・自尊心を大切に支援しております。また、プライバシーの確保に配慮し、トイレ内の環境を整え自力で行える事を大切にしながら、残存機能を活かしたケアに努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをもとに排便状況を確認しております。便秘の方には必要に応じて飲食物を提供し、献立や調理の工夫に努めております。また、体調に合わせて散歩や外気浴等の実施、冬期間では、室内での体操・ゲーム等身体を動かせる機会を提供しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の意向を尊重した上で体調を確認し会話やスキンシップを通して、個々に気持ち良く入浴して頂ける様支援しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に応じながら、その人なりに安心して気持ちよく休憩、睡眠ができるよう、定期的な寝具交換等、個々に合わせ配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾病に関する服薬内容を把握し、症状の変化などあった時は随時主治医に報告・相談・指示を頂きながら対応しております。また、家族に連絡・報告・相談に努め、医療との連携が図れるよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族様からの情報をもとに、個々の出来る事の役割を通して、能力を発揮でき張り合いとなる達成感が得られるように支援しております。また、個々に合わせた必要な準備の支援を行っております。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力のもと外出・外泊など協力頂いております。また、本人の要望など必要に応じて外出（催事含）・買物支援・定期的にドライブ等に出かけております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望を踏まえご家族様の理解・協力を頂きながらお金の所持・管理されている方もおります。買物支援に合わせ小袋を準備し小銭を入れ本人に渡し自ら管理・支払える機会を提供しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時や、定期的に家族と連絡が取れるよう努めており、手紙の代筆なども頼まれます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下など共同空間には、共に手がけた作品や季節感を取り入れた作品・飾り物を入居者と共に話し合い装飾し、季節感を取り入れながら過ごしていただけるよう努めております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングにはソファや椅子が置かれており、それぞれがお好きな場所で過して頂けるよう要望の取り入れ・配置の工夫に配慮しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたもの馴染みのものをお持ち頂けるよう働きかけております。また、本人の意向や生活状況を考慮しながら、安心できる環境づくりを心がけております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式の活用や日々の関わりの中から本人の能力を把握し、安全かつ一人一人の力を活かせる援助の見極めに努め、自立した生活が送れるよう工夫しております。		